

科学研究費助成事業（国際情報発信強化） 中間評価

課題番号	18HP2012	事業期間	平成30(2018)年度～ 令和4(2022)年度
取組の名称		団体名称	代表者名 (職名・氏名)
日本考古学の国際情報発信強化		一般社団法人 日本考古学協会	会長・辻 秀人
学術刊行物の名称			(略称)
Japanese Journal of Archaeology			JJA

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

評価	評価基準
A+	当初計画を上回っており、かつ改善した評価指標による目標達成が見込まれる。
A	当初計画が達成されつつあり、今後の目標達成が見込まれる。
○ A-	当初計画より一部遅れは見られるが、概ね今後の目標達成が見込まれる。
B	今後の目標達成の見込みはあるが、経費の使用に問題があるため、経費の減額が適当である。
C	今後の目標達成が見込まれないため、取組の中止が適当である。
(評価意見)	
<p>これまでの予算執行状況は妥当であり、また、アクセス数・ダウンロード数において2020年から改善が見られる。以下に改善点、やや懸念される点を列挙する。</p> <p>英文機関紙JJA (Japanese Journal of Archaeology) の認知度を高め、投稿を促進する試みとして①国内学会・国際学会及び拠点研究機関との連携の強化、②若手研究者の国際発信能力育成、③JJA を起点とした国際的ハブの構築、④JJA から日本考古学の国際発信の4つを企図され、実行に移している。①、③、④については概ね達成されつつあるように判断される。</p> <p>一方、②については、非常に重要な目標であるが、企画について会員にさらに周知・浸透する余地があるものと思われる。</p> <p>また、2018年以降の論文1件あたりのレフェリー数が平均1.0～1.2の間で推移しており、1件あたり2名のレフェリーを確保できていない点については改善が求められる。論文は投稿されたものがほぼ100%に近く採択されているため、質の確保が図られているのかやや懸念が残る。</p>	